

令和5年度 明石市地域自立支援協議会 くらし部会 リポート Vol.50 令和6年3月27日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134



今年度も大変お世話になりました!!

障害福祉職の人員について一緒に考えていただきたい

今年度はコロナ禍が明け、対面にて六月・十一月・三月の三回集まりました。議題は本ワーキング発足当初より毎回のようになっています。人員不足、人材の確保、定着率が悪い等、人材に関する内容を再確認しているような次第です。

障害福祉という職業は、言わずもがなで、社会保障分野に入ります。社会保障というものは、公的に必要な人員は担保されるべきもので、消防署に火事が少ないから消防隊員を削減するとか、警察署に犯罪が減っているから警察官を削減するなんて事はあり得ないでしょう。福祉分野も同じです。人が誰かを癒す為には、自身が癒されていなくてはその余裕が生まれてこないと感じています。社会保障とは、何かあった時に困ることが少ないように人員を担保することが本質ではないでしょうか。そして、その人たちの人件費は、ある程度安定した報酬でなくてはいけないと感じています。改めて、福祉職の人員に関して我々だけではなく、社会の困り事として関心を持っていただければと思います。

コロナ禍で失われた日常を取り戻す時期になりましたね

くらし部会副部長兼
生活介護事業者連絡会リーダー



NEWS

山崎信吾 氏に今年度の活動を振り返っていただきました

「生活介護」や「グループホーム」の役割を保護者にも認識してもらいたい



和気あいあいとした会議の様子

特別支援学校を卒業後に生活介護を利用する人が減っているという現状から、生活介護のサービスの見直しをしたいといった意見もありました。生産活動の導入や、特性に合わせたグループを作り活動するなどの創意工夫をしていますが、利用者が減っているのは、たとえ重度の障害者であっても、学校の卒業直後に「介護」と名のついた支援を受けることは、保護者の方の抵抗があるのではないかと思っています。

市内に新設予定の強度行動障害者向けのグループホーム（以下GHC）のニーズ等についても意見交換し、共通認識を図りました。現状は、保護者が元気なうちは手元に置いておこうといった考えがあるので置かないかという意見が出ました。生活の場としての社会資源が、自宅を除けば、入所施設とGHCという二択になっており、入所施設は増えない方向性のため、今後はGHCがメインになってくると思われませんが、入所施設とGHCの差異があまりなく、ミニ施設のような状態になっている事、重度者のケアやある一定期間の訓練が必要な方に関しては、入所施設が必要なのではないか、また新たな社会資源の確立も急務であるという見解になりました。

“生活介護”についても何かもう少し楽しくなるようなネーミングであれば利用しやすくなるかなあ～

まとめ



結局最後の話も、そのサービスを履行するためには人が必要です。福祉職だけではないでしょうが、やはり人が足りません。昔、武田信玄が「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」と言ったように、人が最も大事な財産だと感じました。（山崎氏より）